

授業科目名	公衆衛生看護活動展開論Ⅱ	担当教員	◎鶴岡章子、川上裕子、 佐々木亜希子、山口夕佳	科目ナンバリング NP403
選択	開講年次：4年前期	単位：2単位	授業形態：講義30時間	

【授業概要】

個人・家族、集団・組織だけでなく地域全体を対象とした保健師活動の必要性和活動方法を理解する。実際の活動の場で、活用可能な理論とその展開方法の一つである地域看護診断を中心に学修を深める。地域看護診断では、主にコミュニティ・アズ・パートナーモデルを用いて地域で生活する人々や生活の場の状況を把握し、地域の地理的・社会的・文化的特性を踏まえて個人や家族を含む集団および地域を単位としたアセスメント・分析から地域の健康課題を明確化し、その解決方法を検討して導き出すまでの一連の過程を学修する。

【達成目標】

1. 地域全体を対象とした公衆衛生看護活動の重要性について理解する。
2. 地域看護診断に活用される理論を理解し、地域看護診断における情報収集・分析および保健活動の計画・実践・評価の一連のPDCAサイクルのプロセスを理解する。
3. 地域看護診断の一方法であるコミュニティ・アズ・パートナーモデルの展開方法を理解する。
4. 地域看護診断に基づいた保健事業計画の立案と評価を理解する。

【履修条件】

3年次後期までに開講されている保健師教育の必修科目を履修していること。

【授業計画】

[01] 地域全体を対象とした看護とは	(鶴岡)
[02] 保健師が行う地域活動と地域看護診断	(鶴岡)
[03] 健康課題と地域保健福祉計画①ー保健活動計画の策定プロセス	(山口)
[04] 健康課題と地域保健福祉計画②ー保健活動計画の実践と評価	(山口)
[05] 地域看護診断に関連する理論・モデル	(鶴岡)
[06] コミュニティ・アズ・パートナーモデルの概念と技法	(鶴岡)
[07] コミュニティ・アズ・パートナーモデルの展開過程	(鶴岡)
[08] 地域看護診断の展開① 既存資料からの情報収集	(鶴岡・川上・佐々木)
[09] 地域看護診断の展開② アセスメント	(鶴岡・川上・佐々木)
[10] 地域看護診断の展開③ 地区視診	(鶴岡・川上・佐々木)
[11] 地域看護診断の展開④ 地区視診と収集した情報の統合	(鶴岡・川上・佐々木)
[12] 地域看護診断の展開⑤ 地域の健康課題の明確化	(鶴岡・川上・佐々木)
[13] 地域看護診断と保健事業計画の立案① 健康課題の分析と保健事業計画	(鶴岡・川上・佐々木)
[14] 地域看護診断と保健事業計画の立案② 保健事業計画の評価	(鶴岡・川上・佐々木)
[15] 地域看護診断と保健事業計画の発表	(鶴岡・川上・佐々木)

【教科書】

荒賀直子他(2022). 公衆衛生看護学.jp 第5版(データ更新版)、インターメディカル。
平野かよ子編(2015). 最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論(第4版)、メヂカルフレンド社。
厚生労働統計協会(2022). 国民衛生の動向(2022/2023)、厚生労働統計協会。

【参考書】

金川克子他編(2011). 地域看護診断(第2版)、東京大学出版会。
エリザベス T. アンダーソン/ジュディス・マクファーレン編、金川克子他監訳(2007). コミュニティアズパートナー第2版、医学書院。

【評価方法・評価基準】

定期試験50%、課題レポート50%

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：公衆衛生看護学、公衆衛生学、保健統計学、保健医療福祉行政論などの保健師必修科目について復習する。
教科書の該当箇所を事前に学習しておく(2時間)。

事後学習：各回の授業内容を、教科書および授業時に配布した資料等で復習しておく(2時間)。

【教育目標(必須要素)との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力、Ⅲ. チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅳ. ヘルスプロモーションと予防の実践能力、Ⅴ. 国際的視野と地域貢献能力、Ⅶ. 包括的看護実践能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートは評価しフィードバックする。

【備考】

(保選)保健師国家試験受験資格取得のための選択必修科目
保健師教育課程の履修許可を得た学生のみ履修可能